

令和7年産 中生水稻(ヒノヒカリ)栽培しおり

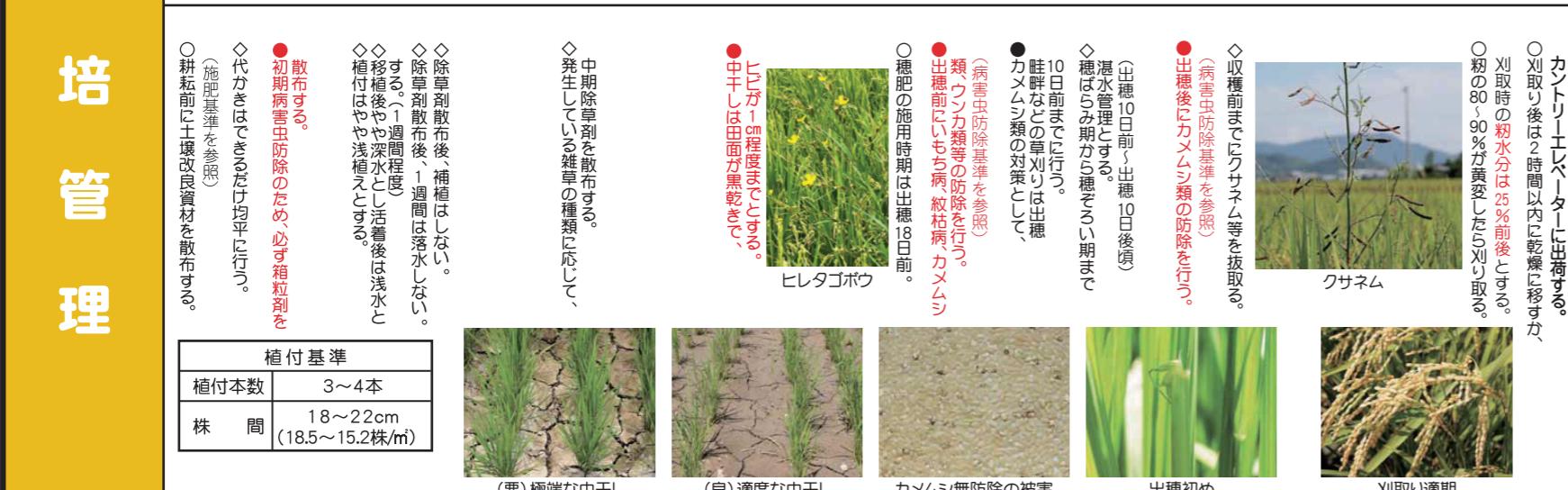
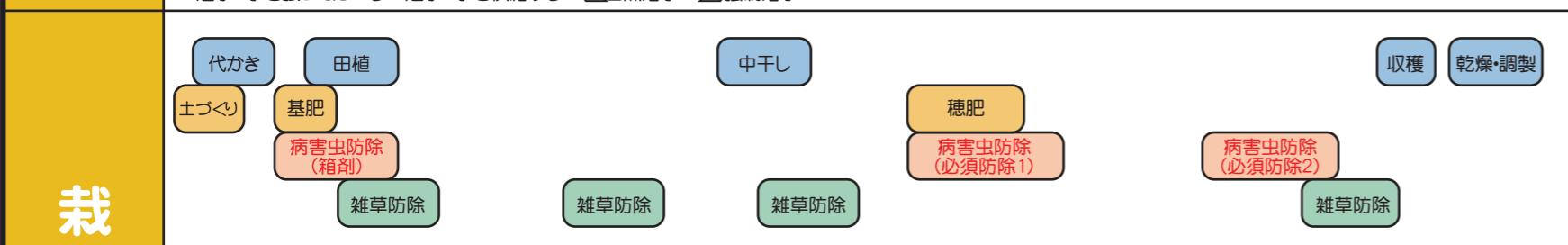
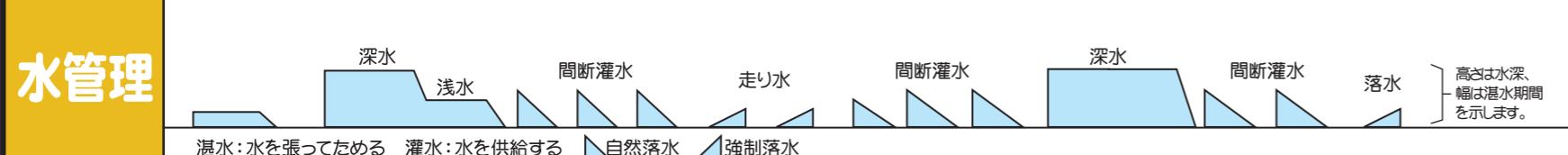
病害虫の発生状況については
最新の香川県病害虫防除所の
ホームページをご覧下さい。

JA香川県東讃営農センター(大川地区)
監修:香川県東讃農業改良普及センター

■土づくりのため、堆きゅう肥等の積極的な施用に努めましょう。また、稻わらや麦わらは焼かずにつき込みましょう。

作業の目安	作業品種	田植日	間断灌水開始 (田植後15日)	中干し期間	穂肥施用 (出穗18日前)	出穂期 (ほ場全体の 4~5割が出穂)	収穫期
	ヒノヒカリ クレナイモチ	6月15日	6月30日	7月15日~8月2日	8月9日	8月27日	10月6日~10月11日
		6月20日	7月5日	7月20日~8月4日	8月11日	8月29日	10月8日~10月13日
		6月25日	7月10日	7月25日~8月6日	8月13日	8月31日	10月10日~10月15日

※中干しは、田面にできるヒビ割れが1cm程度までとします。強い中干しは、根を痛める原因となります。



植付基準	
植付本数	3~4本
株 間	18~22cm (18.5~15.2株/m ²)



1)基肥・穂肥の施肥基準 (kg/10a)						
肥料名	窒素-リン酸-加里 N - P - K (%)	総量	基 肥	穂肥Ⅰ (出穗18日前)	穂肥Ⅱ (出穗10日前)	備考
スーパー固形400J	14 - 10 - 10	55 (45)	55 (45)	-	-	ワニショット肥料
スーパーブレンドLP40	14 - 14 - 14	60	35	25	-	ツーショット肥料

注()は、側条施肥の場合

3)堆肥を施用する場合 (kg/10a)

肥料名	窒素-リン酸-加里 N - P - K (%)	総量	基 肥	穂肥 (出穗18日前)
牛ふん堆肥	-	1000	1000	-
コーン堆肥	-	4000	4000	-
スーパーブレンドLP40	14 - 14 - 14	50	30	20

資材名	総量	基 肥	出穗 35日前頃
粒状ごねがねシリカ	100	100	-
苦 土 一 番	40	40	-
け い 酸 加 里	20(40)※	(40)※	20

※けい酸加里を基肥で使用する場合は、10aあたり40kgとする。

〈留意事項〉

- 堆肥を施用し土づくりに努める。
- 中山間地帯及び地力の高い地では減肥する。
- 牛ふん堆肥は水稻作付けの前年秋に施用することが望ましいが、遅くとも田植30日前までに施用し、すぐにすき込む。堆肥1,000kg当たり基肥で窒素1kg、穂肥で窒素1kg分を減らす。
- 麦わらをすき込む場合は、わらの腐敗に伴うワキ現象のため、間断灌水をすると水管理に注意する。
- コーン堆肥を使用する場合は、作付けの前年秋を目標に施用し、遅くとも12月までに施用する。
- 堆肥やコーン堆肥を連年使用すると地力が向上するので肥料の施肥量を減らす。
- 被覆肥料のマイクロプラスチックの流亡には十分に気をつけること。



病害虫防除基準

〈必須防除〉

防除時期	対象病害虫名	使用薬剤及び10a当たり散布量
移植まで (緑化期～移植当日)	いもち病、紋枯病、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノイガ、イネミズソウムシ	ビルダーフエルテラチエスGT粒剤 1箱当たり50g散布
出穂20～15日前 (収穫45日前まで/1回)	いもち病、紋枯病、カメムシ類、ウンカ類	ゴウケツモンスター粒剤 3kg
出穂10日前 (収穫35日前まで/1回)	いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類	ワイドパンチ豆つぶ250g
出穂直前～穂揃期 (穂揃期まで/2回以内) (収穫7日前まで/3回以内)	いもち病、紋枯病	ダブルカットバリダフロアブル1,000倍 100ℓ カムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ
出穂7～10日後 (収穫7日前まで/3回以内)	カムシ類、ウンカ類	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 100ℓ
出穂10～14日後 (収穫14日前まで/3回以内)	カムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ コブノイガ、イナゴ類	スタークル粒剤 3kg またはスタークル豆つぶ250g スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 100ℓ
出穂14日前まで/3回以内)		トレボンEW 1,000倍 100ℓ

〈確認防除〉

防除時期	対象病害虫名	使用薬剤及び10a当たり散布量 (使用可能時期/回数)
田植直後	スクミリンゴガイ	スクミノン(粒剤) 1~4kg (収穫60日前まで/2回以内)
発生初期	いもち病、もみ枯細菌病	ブランシンフロアブル 1,000倍 (収穫7日前まで/2回以内)
出穂10～20日前	稻こじ病	ブランシンフロアブル 1,000倍 (収穫14日前まで/5回以内)
発生初期	紋枯病	バリダシン液剤 5 1,000倍 (収穫14日前まで/5回以内)
発生初期	ウンカ類、コブノイガ、ツマグロヨコバイ、ニカメイチウ	パダントレボン粒剤 L 3 kg (収穫30日前まで/3回以内)

雑草防除基準

散布時期	除草剤名 10a当たり処理量	注意事項
移植後3日～1日 ノビエ3葉期まで (移植後30日まで/1回)	カイリキジヤンボ 小包装(パック) 10個 (300g)	●水深5~6cmで散布する。 ●散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。 ●藻や浮草の発生が多い場合は、モグト等で処理した後に使用する。
中期除草剤(いすれか)	カチボシルフロアブル 500ml	●湛水状態で散布し、3~4日間は水深3~5cmを保つ。
	トップガンR豆つぶ250 250g	●水深5~6cmの湛水状態で散布し、散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。 ●藻類や浮草が多発する場合は、モグト等で処理した後に使用する。
	ラオウ1キロ粒剤 1kg	●湛水状態で散布し、散布後から3~4日間は水深3~5cmを保つ。 ●高温時、漏水田、極端な浅植田では薬害が出やすいので使用しない。
移植後20~30日 (収穫60日前まで/1回)	バサグラント粒剤 4kg	●初期除草剤散布後、広葉雑草が残った場合に使用する。 ●落水後またはごく浅水状態で散布し、3日間(ごく浅水処理は5日間)は入水しない。 ●散布後2日以内に降雨があると効果が不十分になるので留意する。
移植後25日～ノビエ4.0葉期まで (収穫40日前まで/2回以内)	クリンチャージヤンボ 小包装(パック) 30個 (1.5kg)	●初期除草剤散布後、ノビエが残った場合に使用する。 ●水深5~6cmの湛水状態で散布し、散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。 ●藻類や浮草が発生した場合は、モグト等で処理した後に使用する。
移植後20日～ノビエ4.0葉期まで (収穫50日前まで/2回以内)	クリンチャーバスME液剤 1,000ml、水70~100 ℥	●落水後またはごく浅水状態で散布し、3日間(ごく浅水処理は5日間)は入水しない。 ●高溫時、軟弱苗、重複散布では薬害が出やすいので注意する。 ●展着剤は使用しない。
移植後20日(稻5葉期以降)～ ノビエ4葉期まで (収穫60日前まで/1回以内)	ツイゲキ豆つぶ250 250g	●水深5~6cmの湛水状態で散布する。 ●散布後3~4日間は水深3~5cmを保つ。7日間は落水、かけ流ししない。 ●高溫時、漏水田、極端な浅植田では薬害が出やすいので使用しない。

周辺環境のため農薬を散布した場合は1週間は落水しないようにする。

記載の薬剤の登録内容は令和6年11月26日現在の登録を基に作成しています。容器に記載されている農薬使用基準を確認してその範囲内で使いましょう。

農薬散布の際は、近接ほ場の栽培作物に農薬が飛散しないよう細心の注意を払いましょう。

■栽培履歴を必ず記帳し、出荷開始15日前までに提出しましょう。毎年種子更新100%に取り組みましょう。